

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はるにれ園			
○保護者評価実施期間	2025年1月28日 ～ 2025年2月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数)	18人
○従業者評価実施期間	2025年1月28日 ～ 2025年2月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月28日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	部屋が複数あるので、活動ごとに部屋を変え、メリハリを持った療育が行える。園庭や広いホールでたくさん身体を動かすことができ、同法人の畑ではさつまいもの収穫体験や梅の収穫体験も行っている。ご厚意で田んぼもお借りすることができ、田植えと稲刈り体験もすることができる。	本物に触れる機会を大切にしている。絵や写真で視覚的に伝える事で活動の見通しを持ち、安心して過ごすことはできるが、実際に体験し、物の重さや温度、固さ、触感、扱い方などを自分で体感し、考えて行動できるように支援を行っている。苦手な感覚刺激があるお子さんもいるので、まずは友だちの取り組みを見学し、“ちょっとやってみようかな”を引き出す事を大切にしている。	同法人の協力も得ながら農業体験を行うことができていますので、はるにれの職員だけでなく、他事業所のスタッフさんとお子さんが関わる時間を大切にし、コミュニケーションの幅を広げていけるように活動を進めていきたい。
2	年中行事が充実しているので、季節の移り変わりを感じながら1年間過ごすことができる。1月の団子さしから始まり、4月のお花見や10月のハロウィン、12月のクリスマスなど季節の流れを感じ、行事の由来なども伝えながら取り入れている。	お子さんたちに分かりやすいように視覚的に伝えながら、楽しく行事に参加できるようにメンバーや時間帯、場所などを担当の職員を中心に職員全体で検討している。なので、参加できないお子さんはおらず、そのお子さんの参加できる内容を考え、全員が楽しかった思いをして終われるように取り組むように意識している。	今は各行事、職員が中心になって進めているので、今後は放デイのお子さんを中心にお子さんたちに飾りつけや出し物などを考えてもらい、みんなで作り上げる行事も開催してみたい。
3	はるにれまつりや親子行事、保護者会などを行い、お子さんがはるにれ園で過ごす様子を見てもらったり、保護者の方たちが交流したりする場を年に数回設けることができています。	保護者さんたちはなかなか療育というものがないものなのかイメージがつかみにくいと思うので、実際に小集団活動を見ていただき、お子さんたちの頑張りと成長を見ていただくことで安心して療育に通わせていただくことができると感じている。また、保護者さんたちの交流の場を設けることで、1人で悩まずに相談相手ができたりと、きっかけづくりをしている。	保護者会は、今は座談会のような形式での開催が多いので、少しずつ同年代のお子さんを持つ保護者さんの会や、先輩保護者さんの話を聞く会など、交流の輪を広げる会にする事はもちろんだが、保護者会を行う意味付けを明確にしたうえで開催もセッティングしたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同法人のこども園が近くにあり交流することもできるのにも関わらず、その機会を設けることがなかなかできていないことがもったいないように感じる。	自分たちからこども園へ関わりを持ちたいことを積極的に発信できていない現状がある。日々の療育内容が固定化されないよう、こども園とも連携を図りながら一緒に楽しめる活動を検討していく。	年間行事を検討する年度末のタイミングでこども園との交流会の日程を決め、新年度にすでに予定されている状態で進めていけるとスムーズに取り入れられるのではないかと考えている。はるにれ園ではリトミックなど小集団での活動の充実を図っているので、健常のお子さんとも交流をもちながらリズム活動を行っていきたい。
2	職員1人ひとりの療育に関するスキル不足を感じる。	県の案内などで研修には積極的に参加させていただいているが、発達障がいに関しての研修にもっと参加し、TEACCHやコミック会話、ソーシャルスキルトレーニング、強度行動障害など、療育を行う上で必要な知識を身に付けるようにしていく。	研修で学んだことを療育に取り入れる。また、園内で事例検討会を定期的に行い、お子さんの行動にはどんな意味があるのかを職員で考え、お子さんの成長にとって大切な支援を見出し、個別支援計画に反映させて療育を進めていけるようにする。
3	中高生の受け入れの場がないため、支援や福祉が途切れてしまっている現状がある。	はるにれ園での放デイは現在小学生までの受け入れとなっており、中高生の療育の場がない。実際は18歳までの受け入れをしていかなくてはならないが、現在小学6年生で卒園という形をとらせていただいている。	早急に体制を整えて、中高生の受け入れを開始するよう検討する。保護者さんのニーズはあるので、出来るところから少しずつ利用へと繋げ、途切れない支援の提供に努める。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 年月日				利用児童数 18名		回収数 18枚 割合100%	
社会福祉法人プラナの森 はるにれ園									
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	園庭や広いホール、活動ごとのお部屋など楽しく分かりやすいスペースが十分あると思う。 のびのびと活動に参加できています。	運動メニューを行う部屋など、活動に合わせて適切な場所を提供していく。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	94%	0%	0%	6%		常に子供に対して必要な職員人数が配置できるよう努める。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		部屋と廊下の段差がなくバリアフリー化している。部屋の前には、フルーツのイラストと名前を提示して示している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		毎日清掃をしている。環境設定はその子に合わせて日々検討していく。	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		職員が担当制になっており、さらに子供のことを理解した支援ができるよう配慮している。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	96%	0%	0%	6%		事業所の提供する内容と一致している。これからも不一致がないよう提供していく。	
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		保護者から子供の様子を聞いたり、普段の療育の様子を指導員同士で意見を出し合い、計画している。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	96%	6%	0%	0%	保護者さん、事業所、児童クラブさん間で送迎時間の伝達が上手くいかない時があった。	事業所、保護者間で送迎時間を確認していたが、保護者さんからうまくいかない時があったと意見を頂いたため、これからさらに、事業所間、保護者との連携を図り、送迎支援をしていく。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		療育記録用紙に目標を明記し、支援計画に沿った支援を行う。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	96%	0%	0%	6%	通常の活動メニューも体験活動も色々な経験をしていると思う。	時期に合わせた体験活動や様々な運動メニューをこれからも行っていく。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	66%	6%	6%	22%	こども園で遊んだことやＨＰで見た事はあったが、自分の子どもが参加していたかは分からない。児童館との交流の場があった。	今年度児童クラブとの交流があった。来年度も交流できるよう計画を立てる。	
保護 者へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%		契約時に説明している。これからも、丁寧な説明をしていく。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%		その子にあった支援内容を保護者に確認しながら説明している。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100%	0%	0%	0%		保護者会で、情報共有ができる場を設けている。必要に応じて、研修会などを検討していく。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	連絡帳に記入して共有している。	常にノートや直接保護者にお子さんの様子を申し伝えている。計画を立てる際には、保護者から情報を聞きこちらの情報と照らし合わせて伝えている。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%	0%	0%	0%		定期的な面談で、お子さんの様子をお伺いし寄り添いながら進めていく	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	本人の様子や親の願いに寄り添って温かな支援を日々して頂いている事を感じている。	保護者の気持ちに寄り添い、お話を聞き、必要に応じて面談を設ける等支援している。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	78%	11%	0%	11%	保護者会、夏祭り等参加した。兄弟向けのイベントがあったかは分からない。以前より保護者同士の交流の場が増えていると思う。保護者会でのテーマはカテゴリー分けすると必要な情報を得る事ができると思う。	保護者会でのテーマをもっと細かく指定していく。交流がたくさんできるよう、夏祭りなどの行事で交流の機会を設ける。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%	0%	0%	0%	お迎え時や電話で相談をするといつも親身になって考え対応してくれている。	相談があった場合、すぐに職員に周知して迅速に対応できるよう心掛けている。	

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		連絡メールやノートを活用して必要な情報を共有できるよう対応している。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	89%	11%	0%	0%	H Pや写真いっぱい通信、おたよりを楽しみにしている。 年明けよりH PからInstagramに切り替わる との事で最近の発信は少ない。	Instagramでの配信がまだ準備できていなかったため、迅速に進めて普段の療育の様子を発信していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	Instagramの投稿を楽しみにしている。	これからも保護者からいただいた個人情報取り扱いについての情報をもとに、十分に注意していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	94%	0%	0%	6%		マニュアルをもとに、火災や不審者対応訓練等を行っている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	89%	0%	0%	11%		子どもの動き、職員の動きを想定して訓練をして安全に努めている。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		年間行事に避難訓練等の行事を記載し周知している。日付が近くなったら、改めてメールでの周知をする。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	89%	0%	0%	11%	事故（怪我）が発生した事がないので分からない。	事故等が発生しないように心掛けているが、万が一事故が起きてしまった場合は、迅速に早急な対応をする。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%	0%	0%	0%		職員とのコミュニケーションをとり安心感につながるよう配慮している。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%	0%	0%	0%	毎回楽しみにしている。	行き渋ることがないように子供にとって楽しい活動を取り入れることを心掛けている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%	とても満足している。	今後もとびっきりの笑顔がみれる療育を提供していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
社会福祉法人プラナの森 はるにれ園		7 年 3 月 10 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	その日の登園人数や子どもの様子によって活動を分けるなどし、安全確保を行っている。	物置になっているスペースがある為そこも行かせるともっと良いと思う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	その子に合わせて担当の職員がいる事で安定した支援ができる。	職員が会議や研修で出ている日に、職員の手が足りなくなってしまう事がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	部屋に名前がついており、部屋の前にカードが貼ってあることで、子どもたちもそのカードを見て入室する事ができている。	負傷に気付いた部分をすぐに修繕していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	94%	0%	毎朝清掃をしている。	園庭に危険と感じる箇所があるので早急に改善する
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	その子の状況に合わせて個別になる事ができる部屋を常に用意してある。	これからも必要に応じて個別対応ができる環境をつくっていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎朝のミーティングでその子の振り返りや課題だった点、様子等を共有している。	伝達シートで報告はしているが、週休やお休みだった職員に情報が共有されていない時があるため今後改善していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	保護者の方のアンケートを基に業務改善に繋げている。	常に保護者の方の声に耳を傾け、改善していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	自己評価の面談の際に意見を出す事ができている。	これからも職員同士の意見を大切に、気付いた事があれば改善に繋げていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	監事による事業所見学を行っている。	第三者の外部評価を元に業務改善をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	外部研修に参加したり法人内でも研修を行い、スキルアップに努めている。	研修を受けた職員は、他の職員に水平展開し更なるスキルアップをする。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	その子に合わせた支援ができるよう職員でミーティングをし、プログラムを作成している。	引き続き頂いた書類やお話を踏まえてプログラムを作ることができるようにする。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	保護者の方のお話や子どもの様子を見て計画を作成している。	本人・保護者の方のニーズにそった支援を心掛ける
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	全職員で話し合い、支援計画を作成している。	今後も引き続き行っていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	個別計画を全員にミーティングで周知している。	担当以外のお子さんも支援する日がある為、常に確認していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	担当職員を固定化しないようある程度の期間で変更している。	今後も標準化したアセスメントツールの整備をしていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	個々の個別支援計画に支援内容を取り入れ、具体的に配慮している。	これからもガイドラインを踏まえて支援に必要な内容を設定していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	子どもの様子や前回の活動の反省等を踏まえて話し合い、活動の内容を考える事ができている。	引き続き全職員でミーティングをしてプログラムしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	状況に合わせて行っている。	今後も状況に応じて固定化しないよう工夫していく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	子どもに合わせて計画を作っている。	これからもその子に合わせて計画・支援をしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎朝職員間で支援内容を確認しておこなっている。	引き続き内容を確認して行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	67%	33%	気付いた点をミーティングで話す機会がある。	次の日のミーティングで話しているが、その日その場で支援内容を振り返る事ができると良いと思う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	毎日記録を徹底している。	改善点については、ミーティングで話し合っ て決める行く。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	半年ごとにモニタリングを行っている。保護者の方からも話を聞き、支援内容の適正を判断している。	今後も定期的なモニタリングを行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	83%	17%	制作活動、余暇活動等取り入れて行うことが できている。	引き続き、シーズンにあった制作活動や、楽しい余暇活動を行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	子どもの思いを尊重し、スケジュールを作成するなど行っている。	これからも子どもの気持ちを尊重して支援していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	担当の指導員が会議にて様子を周知している。	まだ会議に参加できていない指導員もいるため経験を積んでいく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	OTさんや主治医の助言をいただき、支援の内容を整えている。	今後も助言等いただき、支援内容を整えていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	月一必ず下校時刻表をいただいて、送迎支援している。	可能なら利用児の通学先全てと情報共有ができると良いと思う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	その子の園の様子等を支援会議や保護者を通して情報共有している。	これからもその子の利用していた事業所の様子を確認しながら支援していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	担当者会議の際にその子の様子をまとめ引継ぎをしている。	引継ぎ会議や担当者会議に今後も参加していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	積極的に研修に参加している。	まだ、さまざまな研修に参加できていない職員がいるため積極的に参加していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	児童クラブでの交流を設ける場があった。また、夏祭りで地域の子供を招いての開催を行った。	これからも積極的に交流を設ける場を提供していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	83%	17%	積極的に参加し、情報を得ている。	これからも協議会等へ参加しさらなるよい支援ができるよう努める。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	毎日連絡ノートや直接保護者に様子を伝えて いる。	ノートを活用して、普段会えない保護者に対して課題等を伝えていく。
保護者への	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	83%	17%	保護者会を開催して悩み等共有できるようにしている。	保護者会等で、保護者同士や指導員と話をする場は設ける事ができている為研修会なども行っていけると良いと思う。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に行っている。	必要に応じて説明する機会を設け、よりよい支援を目指す。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	常に子供や保護者の意思を尊重して支援している。	引き続き意思を尊重し、保護者からも意思を確認する機会を設けていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者に直接支援内容の説明を行い、計画を作成している。	子供の支援したい内容を保護者と確認しながら計画を作っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	ノート等に悩みが書いてある場合はすぐに面談日を打診し面談している。	これからも悩み等ある場合迅速に面談を設け対応している。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	保護者会を年に数回開催し、保護者の交流を設けている。	兄弟同士で交流する機会があまりないため、必要に応じて検討していく。



説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情があった場合、迅速に体制を整備しそれを周知している。	これからも苦情があった場合は、周知対応を適切に行っていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	個人情報を丁寧に扱い、ホームページに療育の様子を発信している。	Instagram配信がまだできていないため、早急に療育の様子を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	保護者から個人情報の取り扱いについてアンケートを取り、それをもとに十分に留意して取り扱っている。	これからも十分に取り扱いに注意していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	口頭だけではなく連絡メールを活用し、家庭に合わせた対応をしている。	今後も引き続き行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	83%	17%	今年は行事への招待は難しかったが、感謝の気持ちを込めてお菓子を提供させていただいた。	例年、夏祭りの行事で地域の方を招待していたが、今年度は利用者のみでの開催になった。来年度は、招待できるよう対応していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	年間行事に避難訓練の予定を入れ、マニュアルを掲載して行っている。	実施できる時期に避難訓練を予定し、マニュアルに沿ってこれからも行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	計画書を作成し、お子さんと職員の動きを確認する訓練を行っている。	今後も計画的に行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	利用時やアセスメントシートに記入と、検査結果の提出をお願いしている。	必要に応じて対応する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	利用時やアセスメントシートに記入と、検査結果の提出をお願いしている。	必要に応じて対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全訓練を計画書をもとに行っている。	職員、お子さんの動きも想定して計画書を作り、安全に訓練ができるよう配慮していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	引き渡し訓練を行い、安全確保に関して保護者に周知している。	引き続き引き渡し訓練をし、安全を確保できるよう心掛ける。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	83%	17%	ヒヤリハットの事例があった際には、必ず報告書を書いて周知している。	これからも報告書を通して、ミーティングで検討していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止の研修を職員が受け、報告書を作り全体周知している。	これからも研修を受け適切な対応をしていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束となることがないよう、療育の検討に努めている。もしそのような状況が起きる場合は事前に保護者の方と情報教養を行っている。	身体拘束となることがないよう職員間で意識していく。